

C-2 : プレアワード

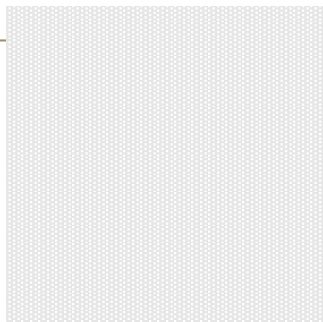
省庁関係者とURAのセッション

8月30日（水） 9:20-10:50 会場E（4階）

現在、日本の学術基盤が沈下しており、その要因の1つとして、各大学において、共有すべき情報が共有されていないという現状がある。共有すべき情報をURA同士で共有することにより、各大学の強み弱みを知ることにつながる。また、URAと政策現場（文科省等）のネットワークが形成され、情報共有することで、現場ニーズにあった事業が多く創出され、日本の研究力強化につながる事が予想される。については、現場URAが、日本の学術基盤が沈下している現状を踏まえ、各大学の枠を超え、政策現場（文科省等）と各大学URAが日常的につながる場（ネットワーク）を形成する必要性の理解を目指す。本セッションでは、まず文部科学省から、URAと政策現場のつながりについて、話題の提供を受ける。

次いで、ボトムアップ事業を事例に、ネットワーク形成と研究力強化のあり方を学ぶ。また、科学技術振興機構から、制度設計のための現場調査や現在公募中の未来社会創造事業の領域設定に係る政策話を交えながら、トップダウン型と言われる事業及びボトムアップ型事業の性質の違い等を考察する。

オーガナイザー



舟山 哲生 : 金沢大学 研究推進部研究推進課 一般職員

平成25年 金沢大学に一般事務に採用され、研究推進部研究推進課学術調整係を経て、平成28年から先端科学・イノベーション推進機構 URAを兼務。

司会者



水野 充 : 金沢大学 先端科学・イノベーション推進機構 特任教授

昭和59年 日本科学技術情報センター（現 科学技術振興機構）入所。IT部門にて文献情報検索システム「JOIS（現在のJDream）」および米独日によるネットワーク型データベース「STN International」のシステム運営、平成15年より地域事業推進部にてファンディング事業運営を担当、平成20年よりresearchmap, JREC-IN Portal, J-STAGE, JaLC等情報サービスの企画・運営を実施。平成27年11月より金沢大学にてURA業務に従事、平成29年4月よりURA協議会事務局長

講演者



齊藤 卓也 : 徳島大学 副学長
元文部科学省 研究振興局基礎研究推進室 室長

平成7年科学技術庁入庁。UCサンディエゴ留学、外務省在オーストラリア日本大使館一等書記官等を経て、政策科学推進室長、予算企画調整官、評価室長、科学技術政策担当大臣秘書官、基礎研究推進室長等を歴任。平成29年8月から現職。



江端 新吾 : 北海道大学 URAステーション ステーション長補佐

H21、北海道大学大学院博士課程修了。博士(理学)。専門は宇宙化学・分析化学。大阪大学博士研究員を経て、H23、北海道大学特任助教。H25、URAとして着任。H26、NISTEP客員研究官(機器共用政策研究)、第4回URAシンポジウム・第6回RA研究会事務局長。H27、主任URAに昇進、GFC副センター長、及び文部科学省科学技術・学術審議会専門委員。H28、ステーション長補佐。H29より総合IR室室長補佐を兼務。



笹月 俊郎 : 科学技術振興機構 戦略研究推進部 部長

民間企業を経て平成14年1月科学技術振興事業団(現 科学技術振興機構)入所。地域事業推進室にてRSP事業、地域結集型共同研究事業を担当。産学連携に関してファンディング、イノベーションジャパン、新技術説明会やJ-STORE(特許データベース)、続いて知的財産戦略センター(現 知的財産マネジメント推進部)の立上げを担当。その後、人財部を経て、平成25年4月より現職。